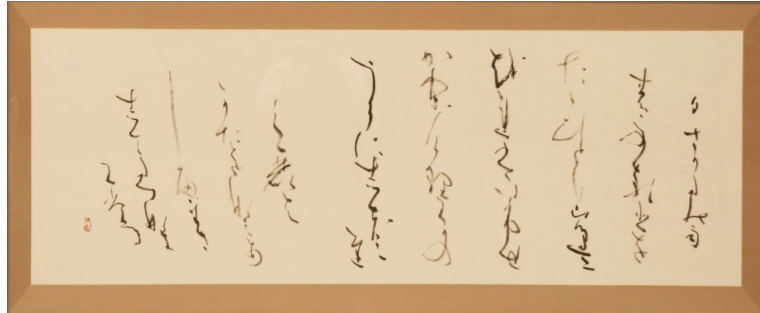


市長賞



作品名 ひさかたの雨
作者 玉井 玉窗
作者のコメント
 墨の潤掠、筆線の細、太等にて絵を描く様に書きました。
 前後に二分するような形になっていますが、二分される事なく気脈が途切れないように、空間の美を大切に制作しました。

京田辺市教育委員会賞



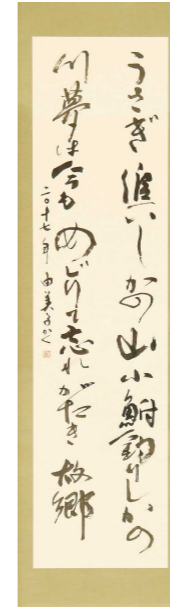
作品名 小倉の山
作者 水谷 雅舟
作者のコメント
 万葉集の中から私の好きな歌を選びました。
 夕方になると静まりかえった小倉の山で鳴く鹿の響き渡る声に耳を済ませると自然の雄大さを感じると共に可憐らしさの中にむなしさを感じる鹿を想像して、文字に動きを出せる様、濃淡の美しさで表現しようと試み制作致しました。

かな作品は全般的にレベルが高く、全国規模の大型展覧会でも通用する内容を持つものが多かったが、今回入賞された作品はその中でも文字の疎密、線の強弱などよく考えられ、よく練習されたものに見受けられた。受賞に値する作品である。

日比野 実

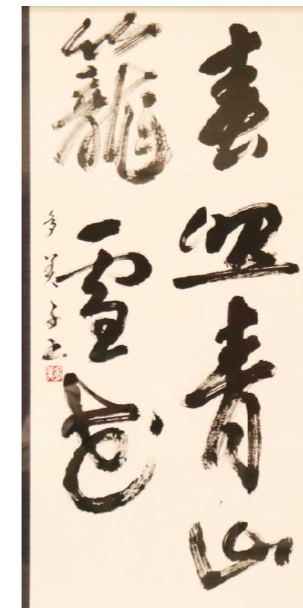
審査員の講評

京田辺市芸術家協会賞



作品名 故郷 (高野辰之)
作者 西川 由美子
作者のコメント
 のどかな田園が広がる京田辺に嫁ぎ40年が経ちました。
 今では、家族と私の大切は故郷となりましたが同時に思い出されるのが、私の生まれ育った田舎の山々と小川のせせらぎの風景です。
 そして「うさぎ追いし・・・」と、口ずさみたくなる思いをそのまま書にしました。

京田辺市文化協会賞



作品名 上官儀句
作者 奥田 多美子
作者のコメント
 墨と戯れて二十余年、歳を重ねて、よわい八十才の記念に制作いたしました。

漢字作品と漢字仮名交じりの作品はとても真面目でしっかりと書かれたものが多く、感心しました。
 日々の鍛錬で手に入れた書の技術を駆使して作品において思い切った表現をもう少し出してほしいと思います。
 今回の受賞作はその点を評価されました。
 是非とも来年は、日々の技術の修練の上に思い切った自己を表現出来たような作品を期待します。

尾西 正成

審査員の講評